ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展

反復と平和

日々、わたしを繰り返す

「反復」に「平和」を見る――
それはいったいいかなる人間的な行為なのでしょうか。
「繰り返し」をテーマに7人の作者の表現を紹介します。

左：佐々木早苗≪無題≫2008-2009年

右：吉川秀昭≪目・目・鼻・口≫2005年-

展覧会概要

タイトル　反復と平和 ――日々、わたしを繰り返す
会　　場　ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）
会　　期　2022年4月29日(金・祝)～7月31日(日)
開催時間　11：00～17：00
休 館 日　月曜日（祝日の場合は翌平日）
観 覧 料　一般300円（250円）　高大生250円（200円）
　※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料　（　）内は20名以上の団体料金
主　　催　ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、
　社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～
後　　援　滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協　　力　浅間学園、近江八幡観光物産協会、クリーニングの相互 仲屋営業所、
　しみんふくし滋賀、社会就労センター あおぞら、やまなみ工房、るんびにい美術館

【問い合わせ　/　掲載用写真貸出・取材】
社会福祉法人グロー 法人事務局芸術文化部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）
担当：山田　　〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2
TEL：0748-46-8100　FAX：0748-46-8228　MAIL：kikaku@glow.or.jp

■展覧会の見どころ

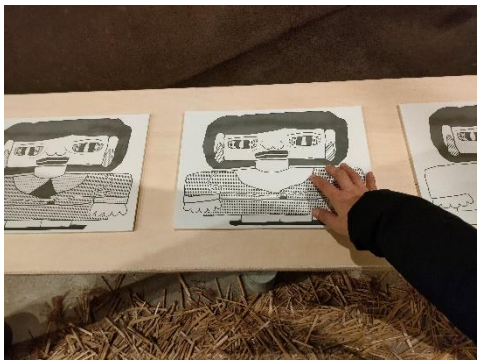
反復される行為に見られる創造性を探ります。

「平穏無事」「やはり家が一番」「いつもの味」等々、わたしたちは、しばしば、世界が変わらずに繰り返されることと、心の安寧とを、同じように考えることがあります。
しかしながら、実際には 1 日たりとも同じ日などないように、世界とは本来、常に変化を続ける時空間です。
馴染みの書店の閉店から、未曽有のパンデミックまで、変化は様々な形で表れ、わたしたちの日々を乱していきます。
そんな中にあって、わたしたちは同じことを繰り返すことへの志向を持ち、常同的世界の創造に、平穏な日々を支える足場の役割を与えようとします。
「反復」に「平和」を見る―
それはいったいいかなる人間的な行為なのでしょうか。
本展では「繰り返し」をテーマに 7 人の作者の表現を紹介します。

清水ちはる　［清水家内］2021 年

見えない、見えにくい人のための鑑賞方法を用意しています。

視覚障害のある方が作品を楽しめるようにするため、すべての作者の表現を、見る以外の方法で楽しめるコンテンツを制作。見える人も見えない人も作品を味わえるような工夫を凝らしています。

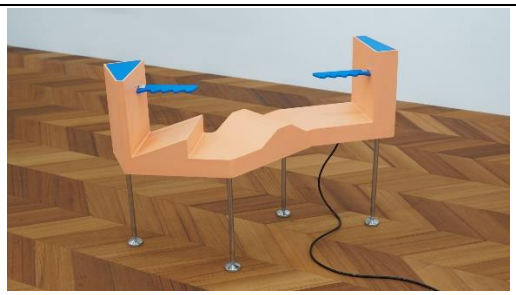


さわれる展示の様子　※画像はイメージです。

■出展者

（1）小林椋　Kobayashi Muku

作品は、無機的なボディや、均質的なカラーリング、または反復的な動作、備え付けられたディスプレイなどの構成要素から、まるでそれらが何らかの「装置」であるように見えるだろう。しかしながら、「果たしてそれらが何のための装置なのか」ということは、おそらく誰もわからない。



≪ヤシ煎る目を刈ろ≫　2020 年

（2）佐々木早苗　Sasaki Sanae

佐々木の制作は「四角」「丸」「文字」の大きく３つに分けて捉えられる。作品には、身の回りの素材や作業にヒントを得て、独自の法則を編み上げ、反復することで身体化させていくような佐々木の制作プロセスが反映されている。

≪無題≫　2008－2009 年

（3）篠原尚央　Shinohara Nao

篠原の代表的な作品は「カキカコ」と言われるもので、その意味は、「かぎかっこ」を指している。作品は、カクカクとした直角的表現が多く、かぎかっこの形を見いだせるものもあるが、本来、かぎかっこにはない曲線や塗りつぶしによる面的な表現が付加されたものもある。

≪カキカコ≫
2017 年

（4）清水ちはる　Shimizu Chiharu

父母娘の 3 人が住む清水家は、一人娘ちはるが並べるモノの数々で、埋め尽くされている。最も多く並ぶのは「短冊状に裁断したチラシを丸めて詰めた段ボール製の“小箱”」である。内壁を覆いつくし、床にまで溢れ、僅かな隙間にもひしめくそれらはさながら清水家の細胞だ。

［清水家内］
2021 年

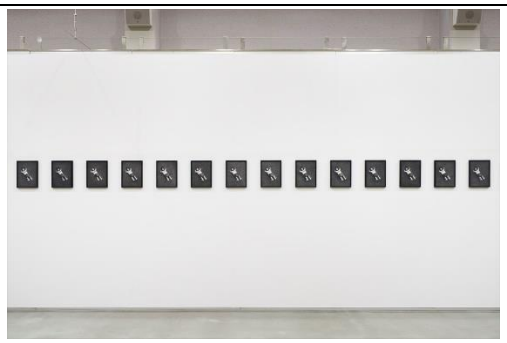
（5）鈴木かよ子　Suzuki Kayoko

「少女」、「花」、「太陽」――鈴木かよ子は、同じモチーフ、同じ構図の絵を描き続けてきた。彼女が暮らす障害者福祉施設の支援者によれば、7 歳から 60 歳くらいまで、この絵を描き続けたという。

≪私≫
制作年不詳

（6）横山奈美　Yokoyama Nami

草原に寝転び、遠くを見つめる少女――これは 10 代だったころの横山自身がモデルになっている。1 日に 1 枚というペースで描かれる本作であるが、横山は前日に自分で描いた絵を見ながら、新しい 1 枚を描いてく。



≪forever≫　2022 年　撮影：若林勇人

（7）吉川秀昭　Yoshikawa Hideaki

陶土にいくつもの点が打たれ、ブツブツした立体造形が生み出される。吉川は、自らカットした陶土に「目、目、鼻、口」と唱えながら細い棒で点を打つという制作を行う。無数の点の正体は、数えきれないほどの顔である。

≪目・目・鼻・口≫　2005 年―

■関連イベント

オンラインギャラリートーク

学芸員によるギャラリートークをＮＯ-ＭＡの YouTube チャンネルでオンライン配信します。解説や裏話とともに、映像でも展覧会をお楽しみください。

日時：2022 年 5 月 14 日（土）　18：00～
（アーカイブはいつでもご覧いただけます。）

配信はこちら

■障害などを理由に、ＮＯ-ＭＡに行くか迷っている方へ

合理的配慮の観点から、できるかぎりの情報提供やスタッフによる対応を行います。
「さわって楽しめるものがある？」「これが苦手なんだけど大丈夫？」「静かにしなくてもいい？」など、気になっていることや必要なサポートについて教えてください。
また、本展では見えにくい方や聞こえにくい方、字を読むのが苦手な方に向けての「情報保障」や触って楽しむ展示物を準備しています。

詳しくはHPをご覧ください

■本展における新型コロナウイルス対応について

来場される方には、以下の対応をお願いします。

・体調不良（発熱・咳・咽頭痛・味覚障害などの症状）の方はご来場をご遠慮いただきます。
・マスク着用、こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒をお願いします。
・観覧中は、他の人と接触しない程度の間隔を確保してください。（障害のある方などの誘導、介助を行う場合は除きます）
・来場者が多い場合は、入場を制限させていただくことがあります。
・大きな声での会話はご遠慮いただきます。

主催者として、以下の新型コロナウイルス対策を徹底します。

・スタッフは毎日、検温・体調確認を行い健康管理に努めます。
・スタッフはマスク着用の上で案内します。また、こまめな手洗いを行います。
・館内のドア、手すり、トイレなど、手を触れられる箇所の消毒を強化します。
・館内は密閉した空間にならないよう、定期的に換気を行います。

広報用画像申込書

社会福祉法人グロー　法人事務局芸術文化部
（ボーダレス・アートミュージアムＮＯ-ＭＡ）広報宛
FAX：0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。
ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、ＦＡＸまたはメールにてお申し込みください。
なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。
(1)　キャプションは、作家名、作品名、制作年を必ず表記ください。
(2)　作品のトリミング、文字載せはお控えください。
(3)　本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名：

『　　』

種別：　TV　ラジオ　新聞　雑誌　フリーペーパー　ネット媒体　携帯媒体　その他

発売・放送予定日：

御社名：　　ご担当者名：

Ｅメールアドレス：　　@

ご住所：（〒　　－　　）

お電話番号：　　FAX：

ご希望の図版番号に✔をおつけください。

□	①小林椋	≪ヤシ煎る目を刈ろ≫	2020年
□	②佐々木早苗	≪無題≫	2008-2009年
□	③篠原尚央	≪カキカコ≫	2017年
□	④清水ちはる	［清水家内］	2021年
□	⑤鈴木かよ子	≪私≫	制作年不詳
□	⑥横山奈美	≪forever≫	2022年　撮影：若林勇人
□	⑦吉川秀昭	≪目・目・鼻・口≫	2005年-

【問い合わせ　/　掲載用写真貸出・取材】
社会福祉法人グロー　法人事務局芸術文化部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）
担当：山田　　〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2
TEL：0748-46-8100　FAX：0748-46-8228　MAIL：kikaku@glow.or.jp